

## 棚卸減耗費（損）・材料評価損

通常、期末において棚卸を行い、材料の帳簿上の数量を実際の数量にあわせます。

この時、帳簿上の数量より、実際の数量が少ない場合、「**棚卸減耗**が発生した」といいます。

棚卸減耗には、2種類あり、

### ○棚卸減耗費（棚卸減耗損）

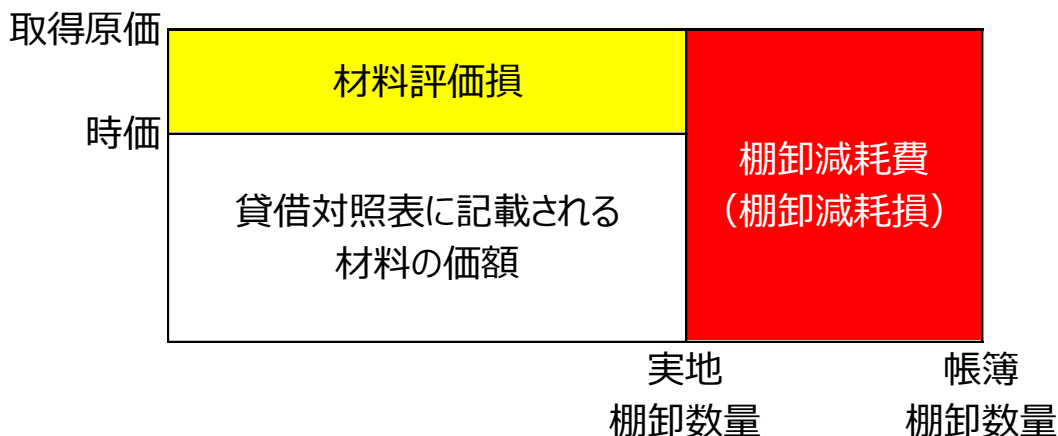
- 紛失や破損、盗難などの原因により生じた、  
帳簿上の数量と、実際の数量の差。
- 『棚卸減耗**費**』も『棚卸減耗**損**』も同じです。  
本試験では、与えられた勘定科目群をよく見て解答しましょう。

### ○材料評価損

- 材料の時価が、仕入時より下落したことにより生じた、  
帳簿上の価格と、実際の価格の差。

と、それぞれ区別します。

棚卸減耗の問題を考えるときは、以下の図を思い浮かべると簡単です。



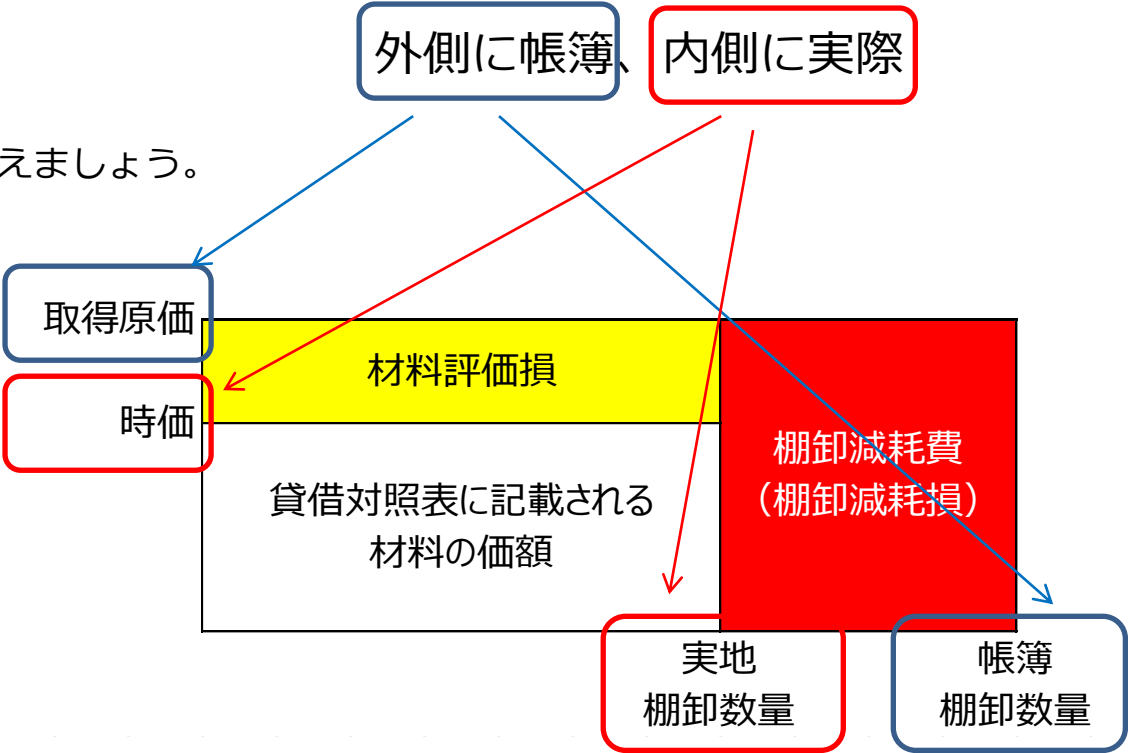
この図より、以下のように計算します。

$$\text{棚卸減耗損} = \frac{(\text{帳簿棚卸数量} - \text{実地棚卸数量}) \times \text{取得原価}}{\quad}$$

$$\text{材料評価損} = \frac{(\text{取得原価} - \text{時価}) \times \text{実地棚卸数量}}{\quad}$$

この図の覚え方ですが、

と覚えましょう。

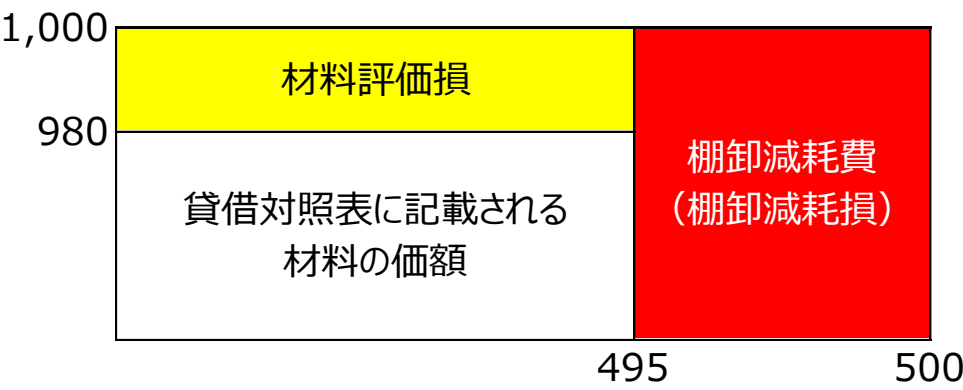


< 例題 >

材料の期末における帳簿残高は 500 個で、取得原価は@¥1,000 であった。しかしその実際有高は、495 個であり、時価は@¥980 となっていた。棚卸減耗費と材料評価損を求め、その仕訳を示しなさい。

< 解答と解説 >

図にあてはめて考えます。



図より、

$$\text{棚卸減耗費} = (500 - 495) \times 1,000 = 5,000$$

$$\text{材料評価損} = (1,000 - 980) \times 495 = 9,900$$

となります。

その仕訳ですが、まず、「棚卸減耗が発生した」ということは、  
『材料』（資産）が減少したということです、

$$\frac{\text{〇〇} \quad ?? \quad / \quad \text{材料} \quad ??}{}$$

という形になります。

材料が減少した原因は、『棚卸減耗費』と『材料評価損』ですから、

$$\frac{\begin{array}{l} \text{棚卸減耗費} \quad ?? \quad / \quad \text{材料} \quad ?? \\ \text{材料評価損} \quad ?? \quad / \end{array}}{}$$

??の部分に、先に計算した金額を当てはめると、正解は、

$$\frac{\begin{array}{l} \text{棚卸減耗費} \quad 5,000 \quad / \quad \text{材料} \quad 14,900 \\ \text{材料評価損} \quad 9,900 \quad / \end{array}}{}$$

となります。